

各学校では1人1台
専用タブレットを
配布し、授業で活用!!

※本市の小・中学校に配布済
(令和3年10月末時点)

ここが変わった
ICTを活用した教育

進化する 次世代の 教育



意見の「見える化」

自分の意見をタブレットを通して発信して、クラス全員で共有できるようにになりました!

個別学習の充実

個人の学習履歴をタブレットに記録し、ドリルのアプリを活用することで一人一人の理解に応じた個別指導が可能になりました!

図の「見える化」

オールカラーで教科書が電子化され、今までの図の説明をしているかが分かりやすくなりました!

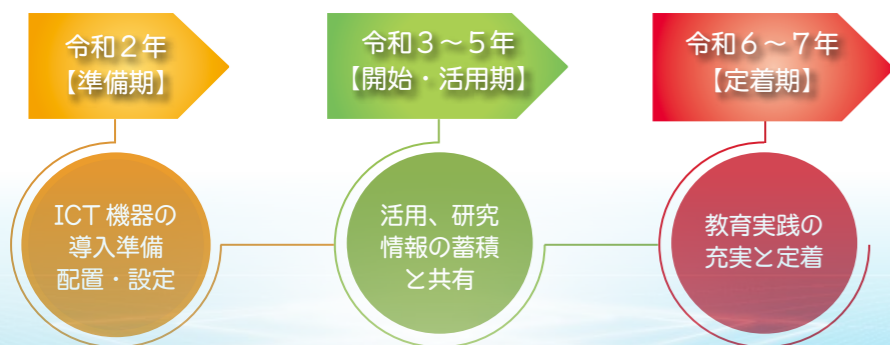
発展的な協働学習

インターネット等の調査活動やカメラ機能を利用した情報収集により、比較・検討などを協働で行うなど発展的な指導が可能になりました!

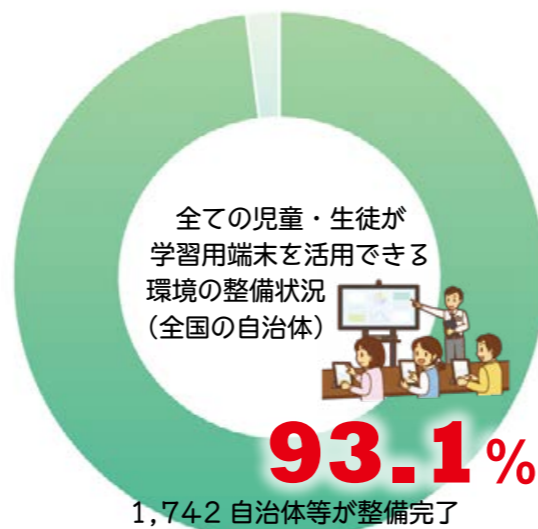
今、教育の現場では大きな変革期が訪れています。ICT（情報通信技術）機器を活用した双方向の教育を目指し、児童や生徒が主体的かつ対話的で深い学びができる環境が各学校で整ってきました。これからの時代を担う将来の人材育成に欠かせない「教育」。今号ではそんな教育の現在と未来にスポットを当てます。

問 市学校教育課 Tel 0994-31-1137

鹿屋市 GIGA スクール構想の実現イメージ



本市の小・中学校における ICT 機器整備状況
学習用タブレット配布状況・・・100%
デジタル教科書、電子黒板の整備・・・100%
その他、学習用 AI 型ドリル教材や多数の教員研修等によりサポートを充実



※出典：文部科学省「GIGA スクール構想に関する各種調査の結果」

**一人一台端末は
令和の学びのスタンダード**

平成31年3月時点の日本の学校における ICT 環境整備状況は、教育用コンピュータ1台当たり5.4人、さらに使用時間も OECD（経済協力開発機構）加盟国中最下位で世界的にも大幅な遅れをとっていました。これを受け、国は校内通信ネットワークと児童生徒一人一台端末の整備を早急に計画。「GIGA スクール構想」と呼ばれるこの取組みにより、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを「誰ひとり取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質や能力がより確実に育成できる」教育 ICT の環境整備が現在ほぼ全国の学校で完了しました。

では、ICT は教育にどのような影響をもたらすのでしょうか。これまでの黒板等を使用した一方向型の一斉学習から、端末を通してより子ども一人一人の反応を把握でき、双方向型の一斉授業が可能になります。また、時間や進行の関係でこれまでは限られた子どもだけができた授業中の意見の発表も、リアルタイムで全員の意見を共有できるようになります。

このように教育の中で「すぐに」「誰でも」使える ICT 環境があることで、より教科の学びを深め、学習で大切な「探究のプロセス」を鍛える新しい教育の形が今できつつあります。